

〔2〕 合同体育

(1) 児童の運動にかかわる実態から

今年度、小学部児童の運動の実態は、次のようである。

- ① 発達段階のひらきが大きくなった。約2歳から7歳までのひらきがある。
- ② 筋力、持久力にくらべ、調整力、身体意識が劣っている。
- ③ 日常経験が少ない運動が劣る。

(2) 合同体育のねらい

小学部の体育では、次のような力をつけることをねらう。

① 身体的発達を図る。

動くことを学ぶことで、身体の諸機能や運動能力を調和的に発達させる。

特につぎの3つの力をつけることをねらう。

・姿勢制御の力

自分のからだ回転した時、もとに戻れる力

・物や人の動きに対する予測・判断する力

ボール遊びや鬼ごっこなどで、ボールや人の動きに対して、自分の体を制御できる力

・スピードやリズムをコントロールする力

走る、くぐる、跳ぶ、などの複合された障害走におけるスピードとコントロールの力

② 精神的発達を図る。

動くことを通して、身体の意識、まわりの認知の力、意志伝達の力を向上させる。

③ 社会性の発達をはかる。

集団で活動することにより、協力、きまり、役割などの社会性を養う。

(3) 合同体育の組み立て

合同体育の内容を次のように構成する。

- ・小学部児童の発達段階に応じるとともに、運動の系統性も大切にする。
- ・繰り返しの部分を入れ、見通しを持たせる。(どんぐり体操等)
- ・集団活動、ゲームを入れる。

今年度は競争意識のある子を中心にそれを模倣させる形でゲームを展開させたい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、次のことに留意する。

- ・運動量の確保……汗がでるほどの量がほしい。
- ・技術の向上……できないのはどうしてか。(体か、認識の力か)

用具や場の工夫

- ・安全への配慮……個別の配慮、その日の様子などを把握して弾力的に指導する。

(5) 指導計画

	体 操	ゲ ー ム	中 心 と な る 運 動
4 月	ラジオ体操	・ リ レ ー	・ かけっこ (短距離走) ・ ファニートンネル ・ たまころがし
5 月	どんぐり体操		・ マット運動 ・ かけっこ (長距離走)
6 月		・ ボ ー ル	・ ボール (バスケットごっこ) ・ ならび方
7 月	ラジオ体操	な し	・ プール遊び ・ 水泳
9 月		・ リ レ ー	・ プール遊び・運動会練習 (短距離走、おうちがたったよ、だるまはこび、大だまころがし)
10 月	どんぐり体操		・ 鬼ごっこ ・ もち運び走
11 月		・ ボ ー ル	・ ボール (まとあて、ドッチボールごっこ) ・ 固定遊具
12 月			・ なわとびあそび ・ ボール (バスケットごっこ)
1 月		・ リ レ ー	・ とび箱あそび ・ マットあそび ・ トランポリン遊び
2 月		・ す も う	・ 雪遊び ・ すもう ・ おしくらまんじゅう
3 月	・ ボ ー ル	・ なわとび運動 ・ ボール (サッカーごっこ)	

(6) 考察

子どもたちが体を動かすことを楽しみ、力いっぱい動けることをめざしてきた。個人ごとの技術や運動の意欲は少しずつではあるが高まってきた。また、ゲーム的な運動をたくさん取り入れたことで、比較的能力の高い子にひっぱられたり、模倣したりする形で、競争や集団意識が少しずつ育っている。

しかし、①体育の時間に身につけたことが、生活の中に生きてこない。②遊び時間に、力いっぱい遊べていない。③集団で遊ぶ力が身につけていない。などの問題も多い。

今後の課題として①体育だけでなく、音楽、養護・訓練、日常生活指導などとの関連を図ること。②能力差に応じられる教材を選択すること。③必要に応じてグループわけを考えること。④「できる」「できない」についてもっと検討すること。が挙げられる。